

横須賀原子力空母配備から9年

# 9月14日(木) 緊急・講演会 横須賀と反戦米兵たち-ベトナム戦争から今へ

講師:ブライアン・A・ビクトリア氏

(オックスフォード大学付属仏教研究所研究員)



日時:2017年9月14日(木)

18時30分開演(開場18時/終了21時予定)

会場:汐入・産業交流プラザ 第一研修室

参加費:500円

原子力空母が2008年9月に横須賀に配備され、今年で9年目となります。米空母が横須賀を母港としたのは1973年ですが、それ以前から70年代初頭にかけて、横須賀で反戦兵士の支援活動をされていたビクトリア氏を招き、講演会を開催いたします。

兵士の人権問題は、当時の反戦米兵とその支援活動で初めて注目され、今に続いています。また、米軍基地の住民としては、その後の日米双方の基地増強や原子艦船の常駐による放射線災害への不安、そして北朝鮮のミサイル発射と、脅威を身近に感じるが続いていますが、今年初めから続く米海軍の事故の続発で亡くなった米兵たち、さらには3・11の大惨事の最中に「トモダチ作戦」に従事し、放射能の影響によって命を落とした兵士たちのことは、同じ横須賀住民として、痛ましい悲劇であり、哀悼します。是非ともご参集いただきたく、お願いいたします。

## 【講師プロフィール】

ブライアン・アンドレー・ビクトリア

オックスフォード大学付属仏教研究所研究員。

ネブラスカ・ウェズリアン大学外国語専攻卒業。駒沢大学(仏教学研究)にて修士取得。テンプル大学(宗教学)にて博士号取得。

米国・ニュージーランド・オーストラリアの諸大学で教鞭をとり、現在にいたる。専門分野は、仏教学、禅学、日本学研究。主な著作に、「Zen at War (和訳:『禅と戦争』)」「Zen War Stories」などがある。

1960年代の後半から70年代の初頭にかけてベトナム反戦運動を展開。

横須賀では、反戦兵を支援するために「ヨコスカ・デイビッド」という喫茶店を開く傍ら、地下新聞を配信。反戦ロックコンサートなどを次々と主催。ベトナム戦争が泥沼化するアメリカ政府の批判を、在日アメリカ人たちとともに続けた。

連絡先:沢園昌夫 090-4835-6681 m.13sawazono@docomo.ne.jp

協力:非核市民宣言運動ヨコスカ・原子力空母の横須賀問題を考える市民の会